第 2018-51 号

恵みと真理のニュース

2018 年 12 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様はわたしと共におられ助けてくださいます。

私は人が必ずイエス様を信じる理由、救いの恵と真理を知る前は教会に行こうと誘う妻の話がうんざりする小言だと思いました。日曜日にはもっと寝ようとすると妻は教会に一緒に行こうとしきりに強請をしました。そんな妻に患者だとういう表現も使って言い争いました。それ以上の傷を与えられないほど酷い言葉で妻に取り責めてむごく当たりました。
そうするある日でした。いつもと同じく会社の会食を言い訳して今朝帰って来て寝ていてのどが渇いて起きて冷蔵庫から水を取り出して水を飲んで振り向いたら妻が居間のソファーに座って祈っていました。その姿が凄然に見えました。妻は居間までそのようにわたしのため、家族のため祈っていたようです。どれほど祈っていたか、ふっとかわいそうに見えて気の毒に思いました。それで、帰ってくる主日に私が先に教会に行こうと話をしました。妻はわたしの話しを聞いて涙を隠せませんでした。しかし、妻にすまない気持ち、ありがたい心はしばらくの間でした 。いやでも教会に行って会社のことを言い訳をして礼拝を休む時がほとんどでした。教会に行っても牧師の説教を上の空で聞き流して居眠りしたらいつの間にか送迎を歌う時間になったりしました。そんな私に、妻は真に礼拝を捧げて、熱心に信仰生活するように小言が酷くなりました。さらに区域礼拝も参席しなさいと強く勧めました。頼まれた一つの事をやるともっと要求する妻と夫婦けんかをしました。区域長から電話が来るとさまざまなことの言い訳をして１年間くらい逃亡者ではなく逃亡者生活をしました。
そうする中で母が癌にかかって闘病生活をしました。妻は母を介護しながら熱心に伝道しました。母の迫害は今考えても本当にひどかったです。それにもかかわらず妻は休まずに福音を伝えながら心を尽くして面倒を見ました。そんな妻が私は理解できませんでした。なぜ、あんなふうにするか、妻が本当に愚かに見えました。わたしは“だから、患者という話を聞いている。と福音を伝えるのを引き止めました。
そのように妻が３年間、母を介護したある日、退勤して病室に入るわたしに母が“婿、お帰りなさい。”と言い娘は少し前に家に帰ったと話しました。息子である私を婿と言い、妻を娘と言うほど妻を認めてくださり、可愛がってくださったのです。このことがあった後、母はイエス様を救い主で受け入れました。
主日の朝になると、“お母さん！何時に迎えに行きましょうか？”という妻が不思議でした。“あんなに良いだろうか。今考えて見ると神様が私に下さった恵でした。母は５年間闘病生活をして平安な姿で天国に召されました。葬式を行いながら妻はたくさん泣きました。５年間の時間は他の人にはどうなるか知らなくても妻には長い時間だったと分かります。その長い時間を黙々母のそばを守って苦労した妻がありがたいです。信仰生活が変わるのを願っていた妻の要求は執拗ほど続けました。自分なりに主日礼拝に熱心に出席してまた、区域礼拝も行っている私に今回は署理執事の職分を受けてほしいとしました 。向けば向くほどまたでる玉ねぎのように要求が続きました。わたしのなりに熱心にしていますが、理解できないと言う妻に理解できないならばただ覚えなさいと酷く話しました。私がまた、負けました。執事の職分を受けました。しかも、妻の要求は終わらなかったです。今回は教会で奉仕しなさいと強く勧めました。本当にわたしの妻の執念は賞を受けるほどです。今回は子供達まで私に勧めました。娘が“教会で奉仕しない人が家でたった一人いる。”としました。すべての家族の圧迫で私はついに両手を上げました。
区域員達がすべて熱心に奉仕していて私もいつかは奉仕をしようと思いましたが、子供達まで誘って決心して実践に移しました。私が信仰生活の手本として思っていた按手執事をついて同じ部署で奉仕を始めました。
奉仕を通してわたしの信仰生活に大きく変化が起こりました。常に感謝するようになりました。初めて心の底から出てくる感謝を神様に捧げました。初めて悟りました。妻がなぜそのように区域礼拝を捧げて、神様が下さる職分を受けて教会で奉仕をすることを願っていたかをこのため妻がわたしのため、月曜祈り、水曜祈り、金曜祈りも参席し始めました。平日礼拝も参席して御言葉を聞き祈って献身しながら神様の恵みをもっと深く、豊かに体験するようになりました。
どころが、ある日から日が経つほど会社の経営が難しくなりました。必ず成り立たなければならない契約が一方的に破棄されるになり、信じていた職員達が一人二人辞め始めました。売り上げはなく赤字になり職員達の給料さえもなくなりました。借金は増えつつ、事業を辞めるしかないかなと思いました。しかし、心だけは平安でした。礼拝をささげることに主が下さる平安が望まれたからです。そのような試練を受ける間神様から受けたものがおおいです。何よりもわたしの信仰が成長して神様を仰ぎながら神様だけ委ねるようになり、小さいことにも楽しんで感謝するようになり、夫婦の中も良くなり家族を愛し仲良くなりました。大変な時期を多くの苦難を受けながら一方で神様が生きておられるのを体験しました。想像もできないごとと方法で神様が働いて私を導いてくださいました。共にしてくださり、助けてくださった神様の恵みで新しい事業で拡張して移転することができました。そして、職員達も神様がよい人で再び満たしてくださいます。
私がまた、神様に感謝する理由があります。つまに善い方々、自分の事のように祈ってくださる方々と共に教会生活をするように恵を下さった神様に感謝を捧げます。私がこのように神様を信じる信仰生活をするまで、また立ち直るまで妻が泣いたはずです。長くて大変な時期、神様がすべての苦難を我慢し他のもありがたいですが、妻の隣で切ない心で慰めてくれて祈ってくださった方々にも本当に感謝です。祈りを頼んだらすぐ集まって祈ってくださったその愛が言葉で表現できないほど感謝でした。教会で会えると“神様が助けてくださいます。良い事ができます。”という励ましが力になりました。ある日は妻がその方々がいなかったら本当に大変だったと言いました。
妻とこの方の祈りのおかげで私は恵と真理教会の按手執事の職分も受けるようになりました。
感謝する心で奉仕も熱心にしています。また、事業場も少しずつ安定されています。そして、もうどんな祈ることができたら私が先に妻を促します。早く祈りの集まり、区域と教区に知らせて祈りを頼むと催促します。
私は今、わたしの人生で一番幸せな時間を送っています。駐車の奉仕をすると車から降りる聖徒と“ハレルヤ！祝福しながら挨拶するのがとても楽しくて幸せです。これからもこの世を行きながら苦難やもっと大変な事も経験するでしょう。しかし、神様が共におられるので恐れません。また、このように信仰と愛が充満な方々と主の中で共にいたのでいくら勝つことができました。わたしの夫婦がこのような方と共に主を仕えながら教会生活をするように恵を下さった神様に感謝捧げます。
どこに行けばあなたの霊から離れることができよう。どこに逃れれば、御顔を避けることができよう。 天に登ろうとも、あなたはそこにいまし陰府に身を横たえようとも見よ、あなたはそこにいます。 曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも あなたはそこにもいまし御手をもってわたしを導き右の御手をもってわたしをとらえてくださる。（詩篇１３９：７～１０）“アーメン”

［信仰コラム］

神様は私の味方である

＂主がわたしに味方されるので，恐れることはない。人はわたしに何をなし得ようか．．．＂（詩編 118:6、7）

＂神様は私の味方である。＂と確信を持って話せる人は物事に期待感を持って恐れなく積極的で大胆に行うことができます。聖書に啓示された神様は全知全能で無所不在でおられ、永遠であります。善で慈愛で真実であります。従って＂神様は私の味方である。＂という確信を持つと心強くなるしかありません。＂神様は私の味方である。＂という言葉が実際であり事実と合う言葉になるためには前提されるべきのことがあります。
第一、神様に仕えることが生活理由と目的になるべきです。
イスラエルの子孫を放せというモーセの要求を聞いてせせら笑ったエジプトの王が結局はモーセにたじろぐようになりました。その理由は神様が十の災いを下ろしたためだと言うことができます。しかし、私達が過ごしてはならないとても重大な事実があります。このような災いがエジプトに迫った根本原因が何であるかということです。エジプト王に話すよう神様がモーセに与えたメッセージはこれです。＂ヘブルびとの神，主はこう仰せられる，「わたしの民を去らせて，わたしに仕えさせなさい。＂この御言葉に相当な威力が従いました。エジプトに下ろされた災いはこのような要求を無視して拒んだ代価でした。
人の存在理由は神様に仕えること、神様を礼拝することです。イスラエルの民が神様に仕えることに熱心を尽くす時は神様が彼らの味方になって彼らを保護してくださいました。しかし、神様に仕えることを捨てて偶像を崇拝すると彼らを離れました。そうしてイスラエルは侵略されたりアッスリヤ帝国やバビロン帝国に捕虜として行きました。私達はどこで何をしても究極的な目的が神様に仕えることにあるべきです。そして神様をより仕えるための目的で励むべきです。
第二、神様の味方で考えて話して行動すべきです。
モーセの後継者になったヨシュアがエリコの城を攻略する方途を調べるために城に接近する時、堂々たるの人が手に剣を持って立っていました。ヨシュアが＂あなたは私達の味方ですか？あるいは私達の対敵の味方ですか？＂と尋ねると彼が＂いいえ、私は今エホバの軍隊長官として来たのです。＂と答えました。そしてヨシュアに奇異な戦術を話しました。ヨシュアが神様の指示通りに行うとエリコが崩れました。＂あなたは私達の味方ですか？あるいは私達の対敵の味方ですか？＂というヨシュアの質問に対して＂いいえ、私は今エホバの軍隊長官として来たのです。＂という答えには重要な教訓があります。これは＂私があなたの味方になるのを願うならあなたが先に私の味方になりなさい＂という意味です。記録された神様の御言葉に合うか調べてその御言葉の方を選ぶのが神様の味方に立つことです。そして神様の品性に合う方を選ぶのが神様の味方に立つことです。
聖殿の門の前で袖乞いしていた足が不自由な人を起したことでサンヘドリン議会員達に尋問を受ける時、ペテロとヨハネは堂々たるな態度で大胆に話しました。＂神に聞き従うよりも，あなたがたに聞き従う方が，神の前に正しいかどうか，判断してもらいたい。わたしたちとしては，　自分の見たこと聞いたことを，語らないわけにはいかない＂。使徒達のこの答えは名言の中で名言です。サンヘドリン議会員達は神様の法と正義より大衆の態度により左右されました。自分達の私欲に左右されました。その反面、使徒達はイエスキリストの御言葉の方に立って行動しました。何が真実であるかを知るために努力して、真実を知ったら真実の方に立つ人々は神様の味方に立つ人です。サタンの国は偽りの上に建てられて神様の国は真実の上に建てられます。真実は神様の永遠な品性なので神様は真実を探し、真実の方に立つその人の味方になってくださいます。
皆さんは、詩編の記者のように＂主がわたしに味方されるので，恐れることはない。人はわたしに何をなし得ようか。主はわたしに味方し，わたしを助けられるので，わたしを憎む者についての願いを見るであろう。＂と話す楽しみを持ってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

クリスマスの真の意味を知っている人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

クリスマスを人々が贈り物を買って送って楽しく食べ遊ぶ日と知っている人がいます。クリスマスがキリスト教と関連があるのは、知っているがクリスマスの真の意味を知らない人がたくさんいます。今日はクリスマスの真の意味は何なのかを調べた後、クリスマスの真の意味を知っている人には必ず表われる現象について説明します。まず、イエス誕生の真の意味を見てみましょう

第一には、聖書でイエスの誕生の当時について記録された部分を見つけてみましょう。

イエス・キリストの誕生をマタイによる福音書には 次のこうであった. 母 マリヤは ヨセフ と 婚約していたが, まだ 一緒にならない 前に, 聖霊によって 身重になった夫 ヨセフ は 正しい 人であったので, 彼女のことが 公けになることを 好まず, ひそかに 離縁しようと 決心した. 彼がこのことを思いめぐらしていたとき, 主の 使が 夢に現れて 言った, 「ダビデ の 子 ヨセフ よ, 心配しないで マリヤ を 妻として 迎えるがよい. その 胎内に 宿っているものは聖霊によるのである 彼女は 男の 子を 産むであろう. その 名を イエス と 名づけなさい. 彼は, おのれの 民をそのもろもろの 罪から救う 者となるからである」としました
ルカによる福音書に 、次のように記録されています。ある日、天使ガブリエルが、神からナザレというガリラヤの町に送られて、ダビデの家系のヨセフという男と縁定めた処女に行き、その処女の名前はマリアでした。天使が内に入ってマリアに言った、「喜べ、恵みを受けた人よ、主はあなたと共におられます」としました。マリアはこの言葉に非常に恥ずかしいして、このあいさつが何を意味するのかじっくり考えていました。すると天使が言った、「マリアよ、恐れることはない。あなたは神の恵みを受けたからである。あなたが身ごもって男の子を産むはずだから、彼の名をイエスと名づけなさい。彼の偉大になっていと高き方の子と呼ばれる。神である主は彼に父ダビデの王座をくださる。彼が永遠にヤコブの家を支配するもので、彼の国が限りないである」しました。するとマリアは天使に言った、「私は男を知らないのに、どうやってこのようなことがあるでしょうか」するので天使が答えました。「聖霊があなたに臨み、いと高き方の力があなたを覆いのである。したがって、生まれた聖なる赤ちゃんは神の子と呼ばれるのである。神のすべての言葉は、不可能なことはない」しました。マリアが言った、「私は主のしもべです。主の御言葉の通り、私に行われるのを願います」すると天使が去っていきました。イエスがマリアの体に生まられたのは、聖霊からできたのです。超自然であり、神秘的に属しているのです。

第二は、神のひとり子イエスは、罪人を救うために父なる神の御心に従って、この世に来られました。

これは、イエスの誕生の真の意味です。人類の祖先アダムが神の言葉に逆らって罪を犯したゆえにアダムの子孫であるすべての人は、罪人として生まれました。罪人は、神の怒りの下にあり、肉体が死ぬ瞬間、その魂が地獄の刑罰に処さらます。これらの運命に直面している人生をあわれんで思われ神が救いの道を決めました。それがあがないの恵みです。あがないというのは罪が全くない人が罪人を代わりに罰を受けて血を流して死んだのです。したがって、これを贖いと呼びます。
罪人をただ許してくだされば よいはずなのに、なぜ贖いの方法でなければならないのですか？愛と義とは、神の絶対的な属性です。愛でいっぱい満ちた神は、罪人をあわれんで救いを願う方であるが罪人を無条件的に許すことは、神の正義にずれます。神は全能でも、自分の属性に反するのができません。罪人は罰を受けなければならない。それでは、贖いすることをあえて神のひとり子が担当しなければならない理由は何ですか？アダムの子孫で、生まれたすべての人は、罪人であるので、他人の罪を代わりに担当することができません。罪のない人でなければならないので　聖子の神が処女の体に聖霊によって身ごもって人の体を着て世に来られたのです。この世で人が聞くニュースの中で、イエス・キリストのお話よりも神秘的で感動的なのはありません。

次は、クリスマスの真の意味を知っている人には必ず表われる現象が何なのかを見てみましょう。

第一には　イエスを自分の救い主と信じて受け入れます。

イエスを信じれば救われます。救いに含まれている内容を一つ一つすべて説明するのは終わりがありません。その中の結論に該当することが天国に入ることです。人は生まれ後生きて死にます。ところが死は存在の絶滅ではありません。人の魂は絶滅されません。肉体の死の後に二箇所の中１ヶ所に行くからです。天国か地獄かです。この世で生きるいる間、救いを得られなければ、必ず地獄に行きます。だから救いを受けてはよいが、受けなくても良いではありません。救いを得るのがいろいろの資格や功労が必要ではありません。自分が神の怒りと裁きの下にいる罪人であるという事実を認めて、イエスを自分の救い主として信じて受け入れればできます。聖書には、救いの道を非常に簡単かつ明瞭に明らかにしたお言葉がたくさんあります。**「神はそのひとり 子を 賜わったほどに, この 世を 愛して 下さった. それは 御子を 信じる者がひとりも 滅びないで, 永遠の 命を 得るためである」（ヨハネによる福音書 3:16）、「わたしは 道であり, 眞理であり, 命である. だれでも わたしによらないでは, 父のみもとに 行くことはできない」（ヨハネによる福音書 14：6）**これより嬉しいニュース、良いニュース、お知らせはありません。これらの福音は、イエスの誕生によったのです。したがって、イエス誕生の真の意味を悟り知ると、イエスを自分の救い主として受け入れていないことができません

第二には、神の愛に感激しながら生きていきます。

罪人を救うために、神は、ひとり子を世に送られました。イエスは、人の体を着て来られ、人生から迫害を受けられ、自分の体を十字架に出してくださいました。 「神は、一人子をくださるところまでこの世の人々の愛したから真の愛。神は愛だ罪に陥った私たちまでも愛しつづける真の愛ではないか」「その大いなる神の愛の言葉で形容できない　高く、高く星を越えてが低く、低くこの地に罪犯し魂を救う息子を送って和睦祭にし罪を許し。空を巻物で海を墨にして限りない神の愛すべて記録するのができない。神の大いなる愛はどうして書こうあの空高く積み上げでも満たされない。神の大きな愛は測量もできず、永遠に変わらない愛を聖徒よ賛美せよ」救われた聖徒であれば、神のその大きな愛に感激する心で生きていくところであります

第三には、聖書に記録された言葉はそのまま行われることを確信しています。

イエス・キリストの誕生は偶然に突然起こったことではありません。神は、アダムが罪を犯したときから罪人を救うあがないの計画をいろいろの方法で知らせました。サタンは、救い主がこの世に来られないようにしようと、あらゆる方法を動員しました。しかし、神の計画と意志を防ぐのができません。神が定められた時になり、 結局には、イエスがこの世に来られました。イエスの誕生は、聖書の預言が必ず行われるのを保証してくれます。したがって、聖徒たちは、聖書の預言と言約が必ず成就されるという確信があります。

第四は、再び来られるイエスを望みます。

イエスは罪人を救うために人生のすべての醜い罪を担当して苦難を受け、十字架につけられ死ななければならないということを知っていました。それにもかかわらず、この世に来られました。イエスは再び来られます。苦難を受けることといとわず約束どおり来られたイエスがこの世を裁きのために栄光のうちに再臨されるという約束どおり来られないはずがありません。したがって、イエスの誕生の真の意味を知っている人であれば、再び来られるイエスを当たり前に望みます。

.

第五は、主の仕事に努めて生きていきます。

主の仕事とは、非常に多様です。伝度することが主の仕事です。聖徒のために奉仕することが主の仕事です。主を喜ばせるすべてのことが、主の仕事です。イエス誕生の真の意味を知ると、歳月を無駄にすることができなくなります。主の仕事をすると無駄にならないので、年月を惜しくするために、主の仕事に励むされます。

　クリスマスの真の意味を知っている人は、イエスを自分の救い主として信じて受け入れます。神の愛に感激しながら生きていきます。聖書に記録されたお言葉はそのまま行われるのを確信しています。再び来られるイエスを望みます。そして、主の仕事に努め生きていきます。皆さんクリスマスの真の意味を知って、それによって現象が顕著に現れるのを願います。